

手仕事作り・景観作り・多様な連携作り**活動の経緯**

本研究会は伊那市高遠町藤沢で、守屋山、入笠山をはじめとする森林地帯、水量豊富な藤沢川流域で育まれた自然・風土・暮らし・文化の中から、地域住民と専門家が協働し「宝探し」を行い、元気な地域づくりをサポートすることを目的に設立された。

取組の更なる拡大のため、山村活性化支援の交付金事業を活用（3年間）。交付金事業の期間中は、同研究会を中心とした協議会（高遠町山村活性化協議会）を組織し、活動した。

活動の概要

- ・地域資源であるカラマツ林、カラマツ材の高付加価値化
- ・家畜を用いた耕作放棄地の解消



地域の森林資源を活用したキノコ類の増殖



企業のCSR活動支援

活動の成果、主な実績等

①羊を用いた耕作放棄地の除草管理

活動開始当初より信州大学とも連携し、羊による耕作放棄地の除草管理に取り組み、現在も3,000㎡以上で放牧している。また、この取組に興味を持った都心の企業がCSR活動の一環としてこの場所を訪れ、耕地の再生活動を共に行う縁も生まれた。羊は地元の保育園に出張し、園庭の除草を行うこともある。

②特用林産物の増殖

地域内の森林整備の際に発生した広葉樹をホダ木として活用し、クリタケ、ナメコの栽培を実施。地元直売所や道の駅で販売し、売上げは徐々に増加。

③カラマツ炭の活用

地域に多く存在しているカラマツの高付加価値化への取組として、カラマツ炭化物を当地域で盛んな花卉栽培の連作障害対策の土壌改良剤として活用。その他、水質浄化用の沈水炭など様々な用途に向けた製品開発にも取り組んだ。